

犀川スキーバス事故

「風化させない」誓う

愛知・日福大で追悼集会

三十八年前に長野市でスキーバスが犀川に転落し、日本福祉大(愛知県美浜町)の学生ら二十五人が亡くなった事故の追悼集会が二十七日、日本福祉大(美浜キャンパス)で開かれた。児玉善郎学長は「悲惨なバス事故のことを見風化させないとともに、二度と繰り返さないよう取り組んでいくことが本学の使命」と誓った。学生代表百七十七人が参列した。

集会は慰霊碑がある広場で開かれた。児玉善郎学長

は「悲惨なバス事故のこと

を風化させないとともに、

二度と繰り返さないよう取

り組んでいくことが本学の

使命」と誓った。学生代表

百七十七人が参列した。

の社会福祉学部二年、鈴木竜斗さん(二〇)は「私たちが事故の教訓を語り継いでいく必要がある」と述べた。参列者は黙とうの後、一人ずつ献花した。亡くなつた女子学生と社会福祉学部で同級生だった会社員中西利博さん(五七)=愛知県豊川市=は約三十年ぶりに参列。「たくさんの中学生が参列してくれてありがたい。手を合わせながら、事故当時のことを思い出していました」と話した。

事故は一九八五年一月二十八日早朝に発生。スキーコンペティションで宿泊へ向かう四十六人を乗せたバスが、長野市信更町の国道19号でスリップし、



献花する参列者たち=愛知県美浜町の日本福祉大で

ガードレールを突き破って犀川に転落。学生二十二人、教員一人、乗務員二人が死亡した。